

にしながら学んでいきたい。また、このような学びの姿を次代に生きる子ども達に伝えていきたい。

○馬上達幸（東邦銀行ピングパンサー監督）

- 1、学業成績と社会生活

選手募集で高校回りをして感じたことは、高校の先生方に、学業成績至上主義の考え方をもつ先生方が多いように思う。表面的に表れている成績でなく、「やればできる」ということを部員自身が痛感している。

- 2、高校の進路指導について

現場の先生方の進路指導は最終的な教育の仕上がりだと思う。単なる学業成績の順位だけで振り分けていないだろうか。

新入行員には、「実社会は、学業成績ではなく実績主義である。いかに実績を上げるか努力するのがプロである」ことを教えている。

- 3、やる気と根気

選手を見ると、選手自身は、やる気がないわけではなく、やる気がないように見えるのである。自己表現が乏しいように思う。

・関西人のやる気、東北人の根気」と言われるが、実社会では、やる気の方が大切ではないか。

- 3、プロ意識の醸成

努力すれば成果がある。成果が

上がらないのは、努力が足りないからである。

- ・学校教育に望むこと

自主性があつて強く生きる健全な心を持つた人間養成が学校教育に必要であると思う。

◇第三回相双地区教育広聴会

期日 平成三年十一月十五日(金)

会場 檜葉町コミュニティーセンター

意見発表

○浅野 一（檜葉町立檜葉中学校教諭
室役員）

内容 中学校における学力向上策

○柴田玲子（旺文社ＬＬ原町第一教

内容 これからの中学校における基

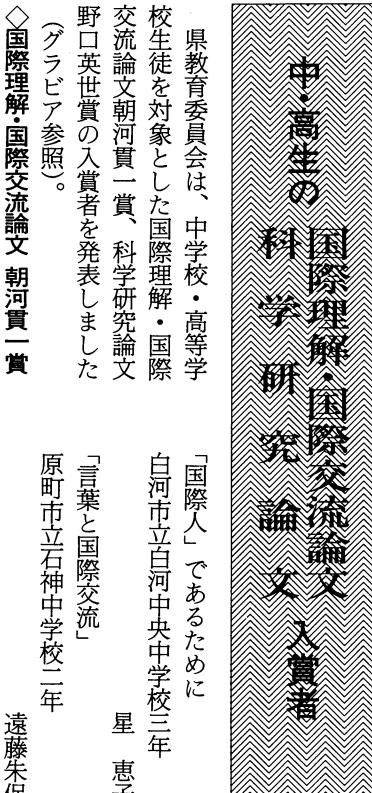
本的な能力としての表現力の育成

○根本アリソン（原町市教育委員会

校生徒を対象とした国際理解・国際

交流論文朝河貢一賞、科学研究論文

野口英世賞の入賞者を発表しました



内容 チャレンジ精神を育むため

に

○金子晴美（広野町立広野中学校P
TA副会長）

内容 子育てを通して自分を知る

内容 地域活動を通して思いやり

○菅家邦弘（東邦銀行浪江支店長）

内容 社会の変化に対応できる人

間教育

内容 地域活動を通して思いやり

○佐藤 勉（富岡町剣友会会長）

内容 社会体育の活性化

○椎谷節子（相馬市青少年健全育成市
民会議家庭教育部長）

内容 これまでの経験を通じて思いやり

○八幡利政（長寿学園学級委員長）

内容 人間性重視に必要な環境づ



第3回相双地区教育広聴会

八幡利政様

宍戸将人

「私なりに国際交流」

桑折町立醸芳中学校三年

山口大一郎

「国際交流活動の第一歩」

福島市立信陵中学校三年

志賀千尋

○優秀賞
「人間の引いた線」

いわき市立平第三中学校三年

白河市立白河中央中学校三年

「国際人」であるために

星 恵子

○最優秀賞
「国際理解・国際文化交流論文 朝河貢一賞」

——中学校の部——

県教育委員会は、中学校・高等学校生徒を対象とした国際理解・国際

遠藤朱保

交流論文朝河貢一賞、科学研究論文

「言葉と国際交流」

野口英世賞の入賞者を発表しました

星 恵子

（グラビア参照）

「ホームステイを通して思うこと」

原町市立石神中学校二年

鳴田厚子

○優秀賞
「国際理解・国際文化交流論文 朝河貢一賞」

——高等学校の部——

「ホームステイを通して思うこと」

遠藤朱保

浪江町立浪江中学校二年

鳴田厚子

○優秀賞
「新たな扉を開いて」

——高等学校の部——

「ホームステイを通して思うこと」

遠藤朱保

若松女子高等学校二年 鈴木寛子

「これからの中学校における基

本的な能力としての表現力の育成

星 恵子

○優秀賞
「国際理解・国際文化交流論文 朝河貢一賞」

——中学校の部——

「ホームステイを通して思うこと」

遠藤朱保

福島女子高等学校一年 伊藤博子

「これからの中学校における基

本的な能力としての表現力の育成

星 恵子

○優秀賞
「国際理解・国際文化交流論文 朝河貢一賞」

——中学校の部——

「ホームステイを通して思うこと」

遠藤朱保

福島県立国際協力

福島南高等学校二年 紺野優子

「これからの中学校における基

本的な能力としての表現力の育成

星 恵子

○優秀賞
「国際理解・国際文化交流論文 朝河貢一賞」

——中学校の部——

「ホームステイを通して思うこと」

遠藤朱保

福島南高等学校二年 宮戸将人

「これからの中学校における基

本的な能力としての表現力の育成

星 恵子